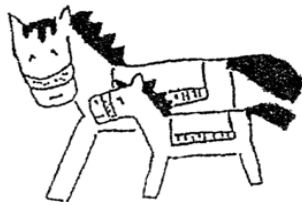


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

25年 10月 NO. 227



(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～		10月の主な活動		～お気軽にどうぞ～
10月 4日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「秋がいっぱい」をテーマに、エプロンシアターや手あそびなどがあります。	
10月 5日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って遊びましょう。	
10月 5日	土	お手玉教室 14:00～16:00	オカリナ演奏に合わせて実技を楽しみましょう。	
10月 13日	日	運動会において 9:00～12:00	9時から旧新塩屋町小学校でしますので、どうぞおいで下さい。	
10月 19日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も育児体験においで下さい。	
10月 24日	木	健康・育児相談 11:00～12:00	小児科園医師にゆっくり相談できます。(予約要)	
10月 28日	月	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	高松少年鑑別所の方より、他の機関との関係や青少年の現状について、お話を聞き、フリートークします。	

・火～金の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談 (月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童謡全集より

あのおはなしがなつかしい、
もしも話してくれるなら、
五度も、十度も、おとなしく
だまって聞いていようもの。

ばあやの瞳には、草山の、
野いばらのはながうつつた。

「もうきいたよ」といったとき、
ずいぶんさびしい顔してた。

ばあやのお話
ばあやはあれきり話さない
あのおはなしは、すきだのに。



高松市医師会看護専門学校の学生さん37名が実習をしました。
(7月30日より2日間ずつで8月23日まで) 実習記録より学生さんが感じたこと、気がついたことなどをクラス別にご紹介します。

◎ すみれ (平成19年4月～20年3月)

・ことばあそびを取り入れ、問題をといた順に席に着いていた。5～6歳児では、言葉は発達しており、多くの言葉を習得している。一度は、すぐに答えられなくても時間をかけて考えることで、自ら答えを導き出すことができていた。また、答える順番でない子どもには、「待つ」「他の子どもの答えを聞く」役割を設けることでルールを守る意識を芽生えさせ、学童期に備える意味合いが感じ取られた。

・おにごっこ 5歳の頃になると遊びにも変化が見られ、仲良し同士やグループになっておにごっこやかくれんぼなど、ルールを決めた遊びを行っている、などの特徴が見られた。その遊びの中で、どの遊びをするかでケンカしている子も見られた。そのことから、小児は仲間との交流は、他者との協調性・自己の欲求の統制方法を学ぶ機会であり、人間関係や社会のルールを学ぶ基礎になるものだと考えられ、遊びの大切さを実感した。



◎ ほし (平成20年4月～21年3月)

・4歳児の心の成長面では、他の人から見られている自分ということを考えるようになることや自我がはっきりしてくることで、もっとこうなりたいという葛藤なども出てくる。心の成長面での特徴を理解した上で、園児との関わりを行っていき、子どもの行動をもとに成長、発達の観察を行っていくことが重要。

・身体的・心理的に著しく成長をとげる時期である。大人が必要以上に干渉することは、幼児の自発性を妨げてしまうため、本人の意思を尊重して自由に遊ばせることが望ましい。しかし認識力に対して、身体能力が十分伴っていない場合が多く、注意力も十分ではない。園庭で鉄棒したり前を見ないで走ったりしていたため、注意して見守ったり、危険な時は注意が必要。道具や玩具についても投げたり、地面に落ちている場合もあるため注意する。また遊具などの死角になっていることも多いので注意する。

◎ さくら（平成21年4月～22年3月）

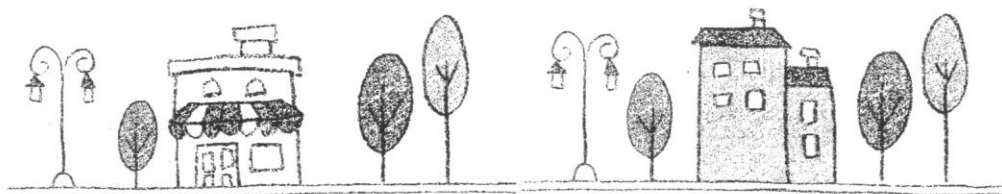
子どもは、あそびや生活の中で衝突を起こし、その度に子どもに諭すようにしつける指導者の姿が印象的だった。それと同時に子どもに対し、効果的な叱り方や諭し方について考えるきっかけとなった。子どもにとって、保育園で過ごすこの幼児期は、遊びを通し、他児とのコミュニケーションを養うだけでなく、食事マナーやけじめのついた行動など、様々な面で社会適応力を身につける重要な期間であることを学んだ。

◎ つぼみ赤（平成22年4月～23年3月）

小児には、自分から適切な訴えをする事はほとんどなく、一人ひとりを把握して、いつもの違いや食事量・機嫌など、色々な観察をし、体調管理を行っていた。看護師も訴えの少ない人たちの観察を行う場合、あらゆる視点から観察して、全身状態や心理状態も把握しておかないといけないので、共通する部分が多くあると感じた。小児においては、発達段階、成長発達について理解しておくことが重要であり、保育園では養護や教育が発達過程に応じで発揮できると思った。

◎ つぼみ青（平22年4月～23年3月）

他児との関わり方、関係のむすび方・・・遊具を取り合う場面において、主に子ども同士の争いや感情の衝突が起こりやすい。ことばで欲しい思いを伝える児もいれば、行動で強行する児もあり、後者の場合は特に「泣かせる」「かたくなになる」「ふくれる」結果になりやすい。そうした時に、スタッフが適切に聞いてみることで、子ども同士の一方的なやりとりを仲介することが可能であることを学んだ。例えば、物がほしいのであれば、「貸して」「待って」等をきちんと用いることばがあることを教えたり、事後であれば「何があったかことばで説明して」と伝えることで子どもはうなずいたり、実践したりして、理解していることを学んだ。子ども相手ではなく人間相手で、どの場面でも本気で接することが必要、と言っていたことが印象的で納得できた。



◎ は と（平成 23 年 4 月～10 月）

朝の体操・・・声かけられながら、横に並び、曲が流れだすと、すごく嬉しそうに跳んだり腕を回したりしていた。先生のマネをしようと一生懸命の子もいれば、他が気になる子もいて個人差がある。曲はよく覚えていて、ダンスもしっかりできている子どもも見られた。1～2歳ということもあり、成長発達段階は個人差が大きいですが、声をかけたり名前を呼ぶことで、良いことや今しなければならないこと、ウロウロせず、皆と同じようにしなければならないことなど、しっかり伝えることが大切だと感じた。

◎ つくし（平成 23 年 11 月～24 年 3 月）

水あそびでは、歩行がしっかりしていて元気な子は大きいプールに入り、小さい子は小さいプールへ入り、個々で楽しく過ごしていた。水あそびの時、水を飲もうとする子や周りを走り回って転げたりする子がいて危険が多いので、十分な観察が必要である。自我の発達に伴い、自分で遊びの種類を選択したり、自分なりの遊びを見つけるため、大人が干渉することは、子どもの自発性を妨げてしまうので、なるべく子どもの意志を尊重し、自由に遊ばせることが必要である。幼児の意志を尊重しながら、安全に十分注意し、事故予防に努めた関わりが必要。

◎ ことり（平成 24 年以後生まれ）

生活と遊びは、歩ける子やつかまり立ちの子、ハイハイの子などと、月齢や個人差によって成長発達段階の幅広さを感じた。また、呼びかけに反応したり、言葉を理解したり、大人の表情や口調で危険なことやしてはいけないことを感じるなどと言語に対しても大きく成長していく段階であり、喃語や一語文を発言している子も見受けられた。この時期は、物を握り、口へ物を入れる行為が見られるため、子どもの口に入る大きさのおもちゃの誤嚥や耳や鼻におもちゃの一部を入れないように注意して見守ると共に、おもちゃの破損の有無の点検やスタッフのエプロンのボタンなどの落とし物がないよう注意する。

